

電子書籍サービスの拡充について

【関連：目標 1（1） 目標 4（2）】

資料支援室

【事業目的】

- 新型コロナウイルス感染症拡大を契機に、利用者の来館や滞在を前提とした機能を見直し、「新しい生活様式」に対応した新たな図書館サービスとして活用方法の拡充を図る。
- 加齢や障がい等により「紙の本での読書」が困難な人へ、電子書籍の特性を活かした読書機会の提供と利便性の向上を図る。
- あらゆる世代の読書傾向に応じた読書機会の提供手段としての電子書籍の活用方法について検証・検討する。
- 紙と電子の双方のメリットを活用したハイブリッド図書館として、資料の提供と保存体制を構築する。

【事業概要】

- 昨年度導入した KinoDen（紀伊國屋書店）のコンテンツの充実を図る。

《利用状況》

項目	令和 2 年度	令和 3 年度	合計
コンテンツ数（点）	663	3,537	4,200
閲覧数（回）	4,680	9,623	14,303

- KinoDen には取り扱いが少ない分野について、他の提供者によるサービスを実験的に導入し、利用状況等を検証する。

【分野】

① オーディオブック

「聞く読書」に対するニーズの検証

② 子ども、ヤングアダルト資料

「不読層」とされる年代に対する読書喚起および学校での読書活動における活用の検討

【追加サービス】

TRC-DL&LibrariE（図書館流通センター）

【サービス開始時期】

① 令和 4 年 1 月（予定）

② 令和 4 年 4 月（予定）

いずれも令和 6 年 1 月までの期間限定サービスとして実施し、図書館業務システム更新時における正式導入の是非を併せて検討する。

【今後の課題】

- 資料の量的拡充と電子書籍サービスの利用促進を図る。
- 郷土資料や基本文献等について、紙資料の維持と電子書籍を活用した長期的な資料提供体制を構築する。
- 市町村図書館等における導入状況を把握し、紙の書籍同様に県立図書館の役割に応じた資料選定の在り方を検討する。